策教授(財政社会学)と

り豊かな者からより貧し ための所得再分配が、よ た。さらに、格差是正の 化していることを示し

より豊かな者には い者への所得移転では、

一奪わ

活権のため、地縁・血縁

像への転換、

最低賃金の

とは、

「人間」に値する生

応大学経済学部の井手英

論じ注目を集めている慶

分断社会」について

ャンパスで開かれた。

う危機感は中間層で深刻 差が顕在化し、それに伴

を示し、8年ごろから従

福島教授は、統計数値

が終焉しはじめ、個人の 来の「日本型企業社会」

> 員が増大し、「身分化」 では有期雇用の非正規社 ためだったのだが、現代

している現実を指摘し、

孤立が進んだと指摘、

差別的雇用制度の改革、

「生活者としての人間」

にすればよいと論じた。 によって「誰もが受益者」

の労働力を商品化すると

いう「無理」を緩和する

(昭和44年10月14日第3種郵便物認可)

俊介所長)の公開シンポ

社会科学研究所(村上

れぞれの専門分野から

「格差」について論じた。 井手慶大教授は、19

る定額現物(教育、医療

などのサービス)の給付

無期雇用」 高橋教授は、

は、労働者

、従来の

シンポジウム 社会科学研

論)、小池隆生准教授(社

橋祐吉教授(労働経済 | れた」という意識が生ま | ・社縁ではなく、公共部

会保障論)の4氏が、そ

ると指摘。それを防ぐた れ、それが分断社会を作

|門や非営利協同部門によ

"分断社会"を越えて

めには一律同率課税によ

うべきだと提言した。 る公縁・協縁社会へ向

ジウム「格差の諸相―

分断社会』を越えて

97、98年を境に所得格

が11月26日、生田キ

割立五十周

(4)

世紀の歩み語り合う

部が創立50周

会

學文學自

する祝賀会が12月6日、 生田キャンパスで開かれ 長)の創立50周年を記念 により2010年度に独 文学部と、文学部改組 (廣瀬玲子学部

立した人間科学部(山上一宮多喜次校友会長らの祝 長、日髙義博理事長、小 会では、佐々木重人学

返り、未来へ向けて抱負 100人が和やかに歓 精次学部長)の教員ら約 談、半世紀の歩みを振り 展示、 |委員長の荒木敏夫教授の 講演会・シンポジウム、 各学科の特徴を生かした 記念企画実施委員会実行 もと、1年間にわたって 同学部では創立50周年 出張授業な

があった。

どを実施してきた。

法学研究所「現場からの

法律学·政治学」

是した。 廣瀬文学部長に作品を贈 のための公開講座」とし 所長)は、「学生と市民 法学研究所(森川幸一

この日はその企画運営

増加する児童虐待

線から報告

教員が解説する。

「現場からの法律学・政

法、刑事法、地域行政の 治学」を開始した。国際

- ムページの扉に登場しまた、50周年企画のホ

した仲川恭司名誉教授が た「文質彬彬」を揮ごう し、教員の代表から発表に尽力した関係者も参加

て今年度、 新シリーズ | 3分野の第一線から報告

参加者からの質問に答える上川氏(右)

左が鈴木准教授=12月10日

-環で (左)。川上隆志教授が当日の様子を紹介

-人芝居を披露した柴田義之さん(中央) 山本隆世さん 流をもつベトナム社会科

専修大学と組織間の交 | 学院のファム・ヴァン・

中村氏=10月22日 第1回講座で森川所長

左

員同士が顔の見える関係 機関の連携について

職

ナム社会科学院副院長来学 佐々木学長と意見交換

井手氏、福島教授、高橋 の質問に答えた(右から 講演後、 4氏が会場から

格差゙分断社会、をどう変革するか

仲川名誉教授(右)から廣瀬学部長に作品が贈呈された

否か」を規準とする。 説明ではなく、雇用、

りに報告。「剥奪的貧困」 奪的貧困」概念を手がか 大幅な改善を提唱した。 ・タウンゼントの「剥 小池准教授は、ピータ |絶対的貧困」

社会科学分野の研究機

の原田博夫研究代表(経

れた。

済学部教授)、社会科学

佐々木学長

参加し、ドゥック副

院長 会に

学研究所の特別研究

また16日には、

ロン氏、

貧困を解消するために 局面で、本来の「人の権 参加、余暇、教育などの 庭生活、地域社会、社会 所得を基準とした貧困の 「公的サービスの現物給 相対的貧困」のような 報告では、この剥奪的 が「奪われているか 家

付が求められる」と語っ

体制強化とともに区市町上川氏は児童相談所の 対し、鈴木准教授は関係 握できるよう、地域社会 | を開催する。3部展開 化が必要であると訴え | ポジウム 「韓国の法と社 であると語った。これに 虐待の兆候をいち早 た。また日ごろから児童 | 会・歴史 われわれは、 村の関係機関との連携強

| ぶ社会知性開発研究セン 究機関が組織間協定を結 ビーイング研究センター ターソーシャル・ウェル ドゥック副院長ら一行4 長、金子洋之副学長、研 人は12月19日、生田キャ パスを訪れ、佐々木学 裕国際交流センター長(経済学部教授)、髙橋 前向きな話し合いがなさ 流協定の実現を目指し、 を踏まえ包括的な国際交 談。これまでの交流実績 研究所の村上俊介所長 (商学部教授)らと懇

|ドゥック副院長が来学

見交換をした。ベトナム し、佐々木重人学長と意

で政治安全保障研究室長インド西南アジア研究所はベトナム社会科学院の 究室で日本近・現代史の 年10月から1年半、 を務めている。2007 チャン・ホアン・ロン氏 文学部教授の新井勝紘研 が講演した。 大学院に国費留学 訪問中、通訳を務めた し、元学 盾などが贈られた=写|てきた重要なもの。今後 者を招き、現場が直面す 告。 (公共政策) 鈴木潔法学部准教授 | を構築することが重要」 がコメント と語った。

会場から「児童虐待で

者は次の通り。

その他の2講演の報告

らみた日本の領域警備」

▽10月22日 「法制度か

部学校主任研究開発官、

|児童相談所の現状を報 援助課長の上川光治氏が 都児童相談センター相談 の現場から」として東京 る問題を聞き、法学部の 12月10日は「地域行政 どの対応が追いついてい と応じた。 件で過去最多となった。 しかし、児童相談所の増 | 認し対策を講じている] 比16%増の10万39 童虐待の件数は、 15年度に対応し 全国の児童相談所 前年度ように行っているのか」 160 の質問に、上川氏は「学 |た児 | た場合、安全確認をどの | 中村進氏 (海上自衛隊幹 が2|はないかとの通報があっ 校などを通じて迅速に確

小松直人氏(警視庁警察

「少年補導の現場から」 等海佐)▽11月26日

官、警部)

公開シンポ開催韓国の法と社会

が関心を持つことが肝要 | で、講師報告のあと本学 | 学教授※入場無料、事前 く把 | なぜ韓国法に学ぶのか」 ス301教室▽第1部 | E-mail:houken@isc 分~16時▽神田キャンパ 3・3265・6888 |教員がコメントをする。 ▽2月4日 (土) 10時30 「韓国の裁判制度におけ | senshu-u. ac. jp 法学研究所は公開シン | の統治機構 — 《大統領 問法学研究所事務局☎0 申し込みの必要なし |族》と法」青木清南山大 | 國分典子名古屋大学教授 制》と《憲法裁判所》」 |る《司法の政治化》とい 大学教授>第2部「韓国 う現象」岡克彦福岡女子 ▽第3部「変革期の《家

溝田名誉教授を 鍛造協会が表彰

社会科 表彰を受けた。11月30 彰式が行われ、感謝状と 日、東京都千代田区で表 教授が日本鍛造協会(八 専門とする溝田誠吾名誉 木議廣会長)から功労者 中小企業論、経営学を 人材育成に貢献 ものづくりの基盤を支え |など素形材技術は日本の |どを務めてきた。「鍛造 |一ジャー育成塾| 講師な 定職業訓練の「鍛造マネ の育成に尽力。東京都認 |マインドをもった技術者 わたって鍛造業界の人材 育成に貢献し、特に経営 溝田名誉教授は長年に



最終講義ご案内

1月21日 (土) 13時5分 ◆梶原勝美商学部教授

生田キャンパス713教

研究に励んだ。